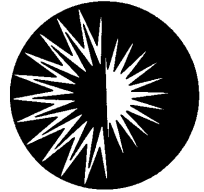




1979年8月 No. 2

技術開発ニュース



研究紹介

- デジタルリレーの開発研究……………(2)
- 大容量揚水発電機高速化の研究……………(3)
- 排水の再利用のためのCOD（化学的酸素要求量）処理装置の開発について……………(4)
- ローカルVQC（電圧無効電力制御）装置の開発……………(5)
- ボイラ高温過熱器管材としてのSUS 347 H鋼管の有効性について……………(6)
- サビ面用塗料の選定試験について……………(7)
- 変電機器PC杭基礎の強制振動特性……………(8)
- 太陽熱温水器と電気温水器の組合せ試験について……………(9)
- 床面スミヤサンブラー（放射性表面汚染測定器）の開発……………(10)

技術解説

限りある資源を大切に

- 我が国初の超高压ガス絶縁母線が開運……………(11)

内外ニュース

- 電子通信部の発足について……………(12)
- 地熱開発実態調査団参加ならびに第10回IERE年次会議出席について……………(13)

研究設備紹介

- 植物用人工気象装置……………(15)

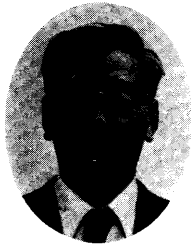
研究報告書

- 提出された研究報告書名……………(16)

80年代への科学技術

名古屋工業技術試験所

所長 犬飼 鑑



我が国の経済は御承知のように、石油ショックを契機としてかつての高度成長から一転して調和のとれた安定成長への困難な道を進んでおりますが、このような重要な時期において科学技術の果たす役割は従来にもまして大きく、かつ国民の科学技術の進歩にかける期待も強くなってきています。

持続的な安定経済成長を達成するためには、まずエネルギー、資源などの成長制約要因を克服して新エネルギー、省エネルギーおよび省資源などの新技術開発が是非とも必要になってきます。また最近の国民生活の質的向上を求める多様な要請に応えるためには公害防止、医療福祉などの社会開発関連技術のより一層の展開が重要となってきます。

我が国の科学技術は明治以来欧米先進国から導入、開花したものであり、現在では一部の分野を除きこれら欧米先進国の水準に近づいたといわれております。天然資源に恵まれない我が国が国際経済社会において確固たる地位を保持するためには、科学技術者が総力を結集して技術開発を推進し、技術立国を目指す必要があります。これにはたゆまぬ技術革新が必要であり、新しい革新的科学技術の研究開発が不可欠であります。すなわち既存技術のより高度化、総合的・学際的な新技術の確立が達成されるとともに、90年代に向けての技術開発のシーズの開拓が80年代の科学技術の課題であろうと考えられます。

小生の勤務する工業技術院名古屋工業技術試験所は国立研究機関として、国家社会の要請に応ずるべく研究開発を進めておりますが、特にエネルギー関連分野にポテンシャルを結集して、太陽熱冷暖房及び給湯システム、高効率ガスタービン用セラミック材料、核融合炉用非金属材料などの研究開発に努力を払っております。今後とも学界・業界の方々の御支援をお願いする次第です。